

自己評価（学校評価）学校関係者コメントを検討しました

1 新型コロナウイルス感染症対策から見えてきたICT教育環境の可能性

あはき施術は接触場面が多く、感染症対策が必須です。多くの時間をかけ、教官と利用者の感染に対する認識を高めることで、日々の予防行動が定着しました。

所内ネットワーク環境の整備、オンライン授業に対応できるタブレットの貸出体制など、感染拡大に影響されない学習環境の構築もその一つです。

この取り組みにより、ICT教育環境の進展には、感染症対策のみならず、悪天候時の遠隔授業、遠方の関係者との対面、講座の実施など、学びの場を広げる様々な可能性が秘められていることが見えてまいりました。

利用者の学習行動の発展についても期待できるため、今後も引き続き、ICT環境を生かした新しい取り組みを検討したいと思います。

2 地域の特性に沿った就労支援と臨床教育計画

当センターの卒業生の就労先は、卒業生が勤務してきた1つの職場に、先輩から後輩をつなげていくという支援に力を入れてきました。今後は、地域特性を考慮しながら新しい職場を開拓し、また、利用者に対する教育目標として、臨床家としての態度の育成に重点を置くこととします。特に、卒業生が就労先で、直面した困難や課題について、蓄積されてきた情報を共有し、臨床教育の目標設定を具現化することで、臨床教育計画の充実を図ります。

なお、臨床実習の外来施術は、実習という教育的側面のみならず、あはきの持つ魅力や効果を地域に密着した視点で、情報発信も含め公開講座等を実施し、地域貢献への取り組みとして進めたいと思います。

3 教育環境・教育活動の向上に向けて ～教官の価値認識を高めるための「手合わせ」～

理療におけるリスクマネジメントは、教育環境の向上に必要不可欠であることから、早急に対応すべきもの、時間をかけて課題解決すべきものを見極め取り組みたいと考えています。その取り組みの根幹となるのが、教官の価値認識の向上です。価値認識を高めることで、ミスを防止し、教官の習得している技術や教え方の差による利用者への不利益を解消していきたいと思います。

今期は、実技科目の中から、手技や操作、その教え方について統一すべき指導内容を選定し検討します。その後は、統一した指導内容を全教官が実施できるよう、「手合わせ」による研修会を定期的に開催します。

なお、次期課題として、教官の研究活動を取り上げ、外部に向かって情報や成果を発信できるよう研究テーマを検討します。